

彙報

◇展示

○令和五年五月八日～六月二日

春季展示

彦根高商創立百周年記念「100年に向かう学知と人材育成」

○令和五年一〇月一六日～十一月一八日

企画展

初代伊藤忠兵衛没後一二〇年特別展「初代忠兵衛と事業経営」

企画展関連講演会（十一月一八日）

「初代忠兵衛と事業経営」 本学名誉教授 宇佐美 英機

開催の記録

今年度の春季展示は、本学部の前身である彦根高等商業学校開校百周年にあたることを記念して、昨年度秋の企画展「100年に向かう学知と人材育成」の一部を展示替えし、再度同じタイトルで開催した。新たに、展示の解説を補うツールとして音声ガイドを作成し、観覧者に該当箇所を設置したQRコードを読み取ってもらい、展示を見ながら音声も聞いてもらえるように工夫した。この導入には解説の補足という意味もあるが、展示パネルや史料の観覧順を示すねらいもあった。新入生が受講する「大学入門セミナー」での見学が一六件あり、観覧者数は四四八名であった。彦根高商で学んだ卒業生の方々でご健在の方は少なくなっておられる中、滋賀大学経済学部となつてからのOBや新入生にとっては自校史を知ることができ、また高商時代の学生や

教官の有り様を垣間見ることができ、興味深い展示となつたように思われる。

秋の企画展は、初代伊藤忠兵衛の没後一二〇年にあたることに因んで、「初代忠兵衛と事業経営」と題して開催した。史料館では、伊藤家の事業経営の歴史に関連して、これまでに「地商いから商社へ」と題する企画展を二回開催したが、今回は初代伊藤忠兵衛の存命期に限定して、彼による事業経営史の沿革だけでなく、一人の人間が市井人、商家の主人、夫・父親あるいは舅といった立場、換言するならば社会人、経営者、家庭人としてのどのように生きてきたのかという側面に注目して展示した。いまだ当家伝来文書の目録は完成していないため、内容は明らかではないが、現時点で可能な限り初代伊藤忠兵衛に光をあて、これまで知られていない人物像を描くことを試みた。

会期中には経済学部の百周年記念行事や学園祭などもあり、同窓会である陵水会の会員や在学生がいつにもまして多数来館された。観覧者数は五三六名であった。

また、この特別展の企画立案者である本学名誉教授の宇佐美英機氏による関連講演会を、対面で実施した。聴講者数は五九名であった。商社研究が専門の大学教員や、伊藤忠商事株式会社や丸紅株式会社の社員・OBの方、地元豊郷町民の方など様々な来場者で盛況となった。専門的な立場からの質問などにもわかりやすく丁寧に回答され、大変有意義な講演会となった。

◇「菅浦文書」の再調査

今年度も科学研究費助成研究「中近世「菅浦文書」の公開促進と史

料学的・文理融合的研究」（基盤A、令和三〜七年度）により、本学および滋賀県立大学・琵琶湖博物館・東京大学史料編纂所等に在籍する研究者らとともに、『菅浦文書集成（仮）』に収録する菅浦文書等の史料翻刻文の時代別点検作業を進め、共同研究会を四月二二・二三日、六月二日、一〇月二七・二八日に開催した。また平行して『菅浦文書集成（仮）』の刊行に向けて、「菅浦文書」及び関連史料すべてを翻刻原稿を出版社へ入稿した。年度末には、「菅浦文書」の料紙法量測定及び原本精査作業を行い、同書の付録資料のデータ作成を進める予定である。

一昨年度から引き続き三回目となる東京大学史料編纂所との共同研究で、国宝「菅浦文書」の料紙調査を実施した。料紙の繊維等をマイクロスコープで精査・分析することや筆跡鑑定などで時代判定が可能なものもあり、今後の詳細な調査結果によっては刊本への反映等について検討が必要である。今回は特に、「菅浦文書」中の菅浦村近在で作成された浅井氏関係史料や海津発給の史料、また県内近江八幡市域の中世文書「大嶋神社・奥津嶋神社文書」等の料紙との比較に絞って調査した。

また、研究分担者である本学データサイエンス学系の佐藤健一教授による「菅浦文書」の花押・略押の画像データ解析も継続して進めている。

◇「琉球貿易図屏風」パンフレット増補改訂日本語版・英語版の発行

令和五年度学長裁量経費による、史料情報発信のグローバル化に係る事業として、当館所蔵「琉球貿易図屏風」のパンフレット増補改訂

日本語版とその英語版を発行することとした。

「琉球貿易図屏風」は、当館が所蔵する史資料の中でも、特にマスメディアや教科書等で利用される機会が多く、当館においても春季展示で定期的に公開してきた。展示の際は、二〇〇一年発行の解説用パンフレット（A3二つ折り）を配布してきたが、昨今の学界における琉球史及び本屏風自体の研究の進展を鑑みて、その内容をA4判8頁に増補改訂し発行した。さらにその日本語版を基に英語版パンフレットも作成して、当館の国際的な発信能力を高めることを目指した。

日本語版は、冒頭で本屏風の全体的な説明と琉球史の概説を行い、次の見開きで本屏風に描かれた各要素を中央の屏風見取り図中の位置と線で結んで個々に説明し、最後に各要素のうち注目される部分をクローズアップして詳説する構成とした。

英語版の原稿作成は、琉球・沖縄の歴史と文化を専門とする英語を母語とする研究者に依頼し、同じく英語を母語とする日本近世史研究者によるネイティブ・チェックを行って、琉球の言葉や歴史的用語について理解しやすい英文になるよう留意した。

令和六年度春季展示は、この増補改訂版パンフレットの内容に基づいた「琉球貿易図屏風」の展示を開催する予定である。

◇収蔵史料目録検索システムのサーバ環境更新作業

今年度本学のクラウドサーバが新システムに移行したことに伴い、同サーバ上で運用している収蔵史料目録検索システムについても移行後更新作業が必要となった。そのため、学長裁量経費の助成を受けて業者による更新作業を行った。

◇伊藤忠兵衛基金からの助成金による伊藤孝三氏撮影フィルムの修復及びデジタル化作業

昨年度に引き続き、豊郷町伊藤長兵衛家のご子孫伊藤孝三氏が昭和初期に撮影された十六ミリまたは八ミリフィルム六十七巻のうち計三十巻分を修復し、その映像をデジタルデータ化した。伊藤氏の私的な映像も含まれるが、伊藤家が運営している財団の幼稚園の運動会や海外への視察旅行の様子など、貴重な映像がよみがえった。これにより同フィルムの修復・デジタル化作業は全巻完了したので、次年度以降は目録を作成し、公開方法についての検討を行う予定である。

◇史料整理

「西山嘉兵衛家文書」(豊郷町)・「上枝村免割帳」(豊郷町)

◇発行

SAMにゆうす五八号、五九号

『初代忠兵衛と事業経営』(令和五年度企画展図録)

◇学部内雑誌掲載日本史論文

『彦根論叢』第二八号

書評『世界遺産学への誘い』(位田隆一・真鍋晶子・青柳周一編)

おうみ学術出版会サンライズ出版(発売)二〇二二年) 内田俊秀

『彦根論叢』第四三九号

「鈴木商店由来の鉄軌道敷設とコミュニティデザインの顛末 大正

期藤本俊郎と田代宏成両村長の毀誉褒貶を中心に」小川功

◇運営委員(経済学系教員)

石井利江子 澤木聖子 坂野鉄也 松田有加 松田有加里 山下悠
渡邊凡夫

(五十音順)

◇史料館職員

館長 阿部安成

専任教員 青柳周一

研究員 宇佐見隆之(教育学系教員)

助手(学芸員) 南田孝子

教務職員(学芸員) 吉岡恵

非常勤職員 岸妙子 松崎由貴代

◇客員研究員

宇佐美英機(滋賀大学名誉教授)

薄井彰(早稲田大学商学術院教授)

大島久幸(高千穂大学教授)

深見泰孝(駒澤大学教授)

水野章二(滋賀県立大学名誉教授)

谷ヶ城秀吉(専修大学教授)

(五十音順)